シルバーカーを使用している高齢者の身体機能について

学籍番号 02M2421　氏名 上原 毅

1. 研究目的

高齢者に対するシルバーカーの適用に関して、理学療法士が身体機能を考慮して適用させることは少ない。そこで、シルバーカーを日常使用している高齢者を対象に、歩行速度や立位バランスを評価して、身体機能の面からシルバーカーの適用条件を見いだせるかについての検討を行った。

2. 研究対象と方法

日頃シルバーカーを使用している高齢者女性32名とした。内訳は外来通院者１名、デイケア利用者9名、デイサービス利用者15名、施設入所者7名である。平均年齢は87.1±5.3歳、シルバーカーの平均使用期間83.2±77.0ヶ月でした。

対象者の立位バランス機能として片脚立ち・閉脚立位の保持時間、歩行能力としてシルバーカー使用時の5m直線の最大歩行速度(シルバーカー歩行)、Timed Up and Go Test（TUGT）を測定した（各3回測定）。対象者にシルバーカー以外の日常の歩行手段（独歩、Ｔ字杖歩行、両手引き歩行など）を問い、その歩行手段における５m直線の最大歩行速度とTUGTも測定した。また、シルバーカー使用の動機についても聞き取り調査をした。

3. 結果

片脚立位が左右何れかで可能な者は32名中9名で、保持時間の平均は6.3±5.5秒であった。閉脚立位の保持時間は平均47.3±19.2秒で、シルバーカー歩行速度42.0±17.8m/分、TUGTは27.6±16.0秒で、全例可能であった。シルバーカー以外の行いやすい歩行としては、独歩７名、Ｔ字杖23名、手引き歩行が2名（χ2検定で$p<.01$）で、有意にＴ字杖が多かった。これらの歩行速度は35.6±16.7m/分、TUGTは26.6±14.6秒で、シルバーカー歩行の速度よりも有意（$p<.01$）に遅く、TUGTは有意な差がなかった。シルバーカー以外に独歩、Ｔ字杖歩行、手引き歩行を選んだ群どうしで各測定値に差があるか検定(Kruskal-Wallis検定)したが、有意な差はなかった。

シルバーカー使用の動機（重複回答）で多かったものは「家族・友人から勧められて」19名、「歩きやすいから」18名であった。不満の有無は「不満なし」が27名であった。「シルバーカーは疲れ難い」20名という回答もあった。

4. 考察とまとめ

Ｔ字杖歩行以上の者であれば、シルバーカーを適用させても良いと考える。特に片脚立位などのバランス機能が低下している者には安全な補助具であると考えた。しかし独歩、Ｔ字杖、手引き歩行の可能な者の間で身体機能を比較しても差が認められず、適用には社会的環境要因や安心感といった心理的な要因も考慮しなければならないと推測する。

今回測定した身体機能から適用条件を断定するには難しいことがわかり、測定項目・症例数の増加、対照群との比較などを行って、更なる検討を進めていく必要がある。